

Book Review

《視能学エキスパート》 視能訓練学

公益社団法人日本視能訓練士協会 シリーズ監修

若山暁美, 長谷部佳世子, 松本富美子, 保沢こずえ, 梅田千賀子 編

このたび、《視能学エキスパートシリーズ》として、『視能検査学』『視能訓練学』『光学・眼鏡』の3部作が刊行された。公益社団法人日本視能訓練士協会の監修である。これは大げさではなく、快挙と言ってよい。量的にも質的にも驚くばかりである。日本の視能学、特にその臨床教育が達した高みに、ひとしきり感心した。

3部作のうちの1つである本書が扱うのは、視能訓練士の業務のうち、彼ら/彼女らが最も“腕を振るう”フェーズであろう視能訓練である。視能訓練とは、斜視や弱視の回復を主な目的として、医師の指導のもと専門の視能訓練士が行うリハビリテーション訓練と定義されており、わが国におけるその歴史は未だ半世紀ほどにすぎない。したがってこれまでは、眼科医が眼科学書を微修正する形で編さんしたテキストブックが教育に使用されてきた。実際、国家試験合格が目的であれば、そういった教科書で十分であった。本書はそれらと異なり、視能訓練士が自らの視点から企画したものである。

一読してまず感じたのは、基礎から臨床までの振幅が非常に大きいことである。前半の基礎知識の部分は、大学の基礎医学系の教官が執筆を担当されているだけあり、生理学、光学から心理学まで実に詳細な記述がなされている。率直に言って内容がオーバースペックと感ずるところも少なくない。編者も少し肩に力が入ったか。まあ、これらの部分は実地に生かす知識というよりも、何かの時に調べる資料的な使い方がされるものであろう。ついでに記すと、全体の最後に

収められた再生医療と人工網膜は、はやりの分野ではあるものの、本書の本来の目的との関係は希薄で、また刻々と変化していく研究分野であることを考えると、長く使われるスタンダードな教科書をめざすべき本書に含めるのが適当かどうか疑問を感じた。

一方、後半の臨床部分に入ると、一転して実臨床に即した記述となる。検査や治療に関する実践的な記述に加え、それぞれの要点が“ポイント”として箇条書きで要領よくまとめられている。また、ケーススタディとして臨床例が豊富に提示され、検査や治療の過程でどのような点に留意すべきか、考える道しるべが示されている。視能訓練のコツがふんだんに盛り込まれており、学習者にとって至れり尽くせりである。初級者のみならず、熟練者にも多くの発見と学びをもたらすであろう。実地に即した書でありながら、引用文献が充実していることにも感心した。この部分はぜひとも通読をお勧めしたい。

いずれにせよ編集者の長年の苦勞がしのばれる力作である。日本の視能学の練度が反映された書であるが、その逆もまた真で、本書が広く活用されることによってわが国の視能学の臨床レベルがさらに向上することを確信する。

筑波大病院教授・眼科
大鹿哲郎

B5・頁440 2018年03月
定価：本体15,000円＋税
[ISBN978-4-260-03223-0] 医学書院刊